

四谷の

千枚田だより



第220号

局佐藤地方
参事官ほか
五名、愛知県
新城設楽農
林水産事務
所建設課小

令和三年度「デイスカパー農山漁村(むら)の宝」

東海農政局は管内において特徴ある優れた取組を独自に「東海農政局デイスカパー農山漁村(むら)の宝」を選定し、広く発信することにより、優良事例の横展開を図ることとしている。

- コミュニティ部門
- (二社) 押井営農組合(豊田市)
- ビジネス部門
- (株) アグリトリオ(豊橋市)
- 個人部門 小山舜二(新城市)

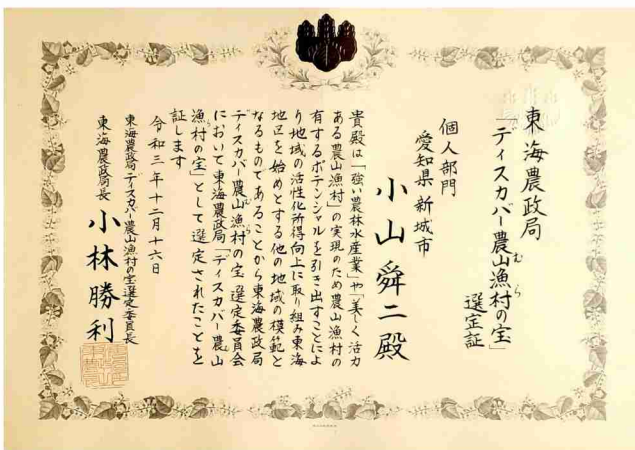
○四谷の千枚田を地域の宝と位置づけ、五十歳を迎えた平成三年から棚田保全活動を開始。以降三十年、多くの賛同者とともに地域(むら)づくりを実践。○棚田の理解を図るため、棚田写真展の開催、都美術館への出展等視覚を通じ知名度アップを目指した。また棚田の多様な機能を活かした生きもの再生、自然観察会、稲作体験、各種研修の実施、余剰米を継続提供して商品開発に協力するなど、率先して活動に取り組み組んできたことが評価された。認定授与式は十二月十六日、新城市鳳来総合支所において東海農政

河路課長ほか二名、新城市鳳来総合支所地域課松井課長ほか三名の列席の中、東海農政局佐藤和正地方参事官から選定証が授与された。



授与式の後、列席者全員で交流会(意見交換会)が行われた。

冒頭、小山は「紆余曲折はあったが、四谷の千枚田を地域の宝と位置づけ、三十年間歩んできた。耕作者、



地域住民や行政、企業関係者の皆さんの協力でここまでやってこれてきた。今回の受賞は皆さんのおかげでいただいた宝物で、その感謝は言い尽くせない」と、お礼を述べた。

農政局は国として地域の皆さんの声(千枚田保全)を市、県、共々、手を取り合っついていきたい。と熱い言葉を頂いた。

要望として、四谷の千枚田はゆるぎない地位を築いた。その大きな要因の一つとして「ふるさと水と土・ふれあい事業」を活用した施設整備にある。その施設も二十年の歳月を経て老朽化、一部には危険を伴う箇

所も見られる。特に作業道においては景観を重視した構造で、見た目にやさしい工法が取られており、老朽化が激しく全面改修の必要がある。また、ベンチや水車、ぼつとりなどは使用不可で見た目にも悪く、訪問者からの指摘がある。

この要望には新城市鳳来総合支所地域課、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課からも是非とも、お願いして頂いた。

獣害対策について、獣害被害は耕作意欲を失う最大原因にもあり、四谷の千枚田の保全を目的に平成二十九年度鳥獣害防止総合対策事業自立施行侵入防止柵の採択により侵入防止柵の設置を行ったものの一部分は電気柵設置で補っていたが、イノシシからニホンジカへと変化、跳躍力の高い習性のニホンジカの侵入被害が頻発。侵入防止柵の設置が「四谷の千枚田」保全には欠かせない事項でもある。是非、設置についてお願いしたい。と要望した。

鞍掛山麓千枚田保存会は令和元年度に農林水産省・東海農政局から「デイスカパー農山漁村の宝」のコミュニティ優良事例に選ばれており、身平橋集会所で行われた授賞式における意見交換会では、棚田地域振興法に乗った中山間地直接支払制度(直払い)の五期加入を列席した耕作者共々お願いした経緯がある。

四谷の千枚田もりあげ隊

十二月十九日、豊橋市高田町の丸八製菓（八雲だんご）は四谷の千枚田で収穫した米を使った五平餅などを売り出すイベント「四谷の千枚田盛り上げ隊」を自社の八雲だんご直売所で開いた。



会場では、豊橋市内七店舗のグルメや雑貨などのブースに約三千人の買い物客でにぎわった。
丸八製菓の鈴木社長は、四谷の千

枚田の景観と、そこで米を育てる耕作者に感銘を受け、少しでもお役に立てればと余剰米を購入、平成二十五年から「千枚田五平餅」として郵便局を通して通信販売や道の駅などで販売している。

今回は毎月実施している売り出しに合わせて四谷の千枚田をPRしようと企画、串に「四谷千枚田」の焼き印を入れた五平餅は飛ぶように売れた。

特設ブースでは、千枚田の写真展を開催。また、鈴木社長、スタッフ、小山などが「四谷の千枚田だより」やパンフレットの配布、来客者に紹介するなどして好評であった。

このイベントで頂いた収益は「四谷の千枚田」の保全活動に有益な方法で活用させていただきます。

大般若

正月四日、四谷身平橋の海源寺にて天下泰平・万民豊樂・五穀豊穰・息災延命を祈願する大般若会を双瀬山釣月寺鎌田宗憲導師のもと厳修した。

大般若会は、大般若経転読会ともいわれ、大般若経六百巻の経題を読み上げ、経典一巻一巻を転読する法会で、経典を転読する風にあると、一年間無病息災の御利益をいただけるということから村人は六百巻の経典をペラペラ風にあて御利益を頂いた。

経典転読の後、よろよろ、アツイ



ってて…、ヨツこらしよと…、音頭を取りながら、やっこさ立ち上がり本尊様、先祖様にお参りした。後で、おっ様に「五穀豊穰や家内安全はともかく、足腰が痛くならないよう押んでくれんかん」とお願いしたところ、おっ様は「私も痛くてたまらん」とおっしゃった。痛いということは、生きている証拠だと痛感した。

雪の千枚田、水墨画模様

気象庁の天気予報では、年末から年明けにつけて雪が降るという予報が的中。

師走の二十八日（写真）と三十一日早朝の雪景色。新年の六日にはポタン雪で千枚田を飾った。



今後の予定

一月十八日、市内鳳来寺小学校の田おこし&田んぼ飛び

行 令和四年一月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二